

姫街道沿いの施設一覧

○三河天平の里資料館（三河国分尼寺史跡公園内）

〒442-0857 愛知県豊川市八幡町忍地127-1 TEL/FAX 0533-88-5881
開館時間：9:00～17:00 入館料：無料 休館日：毎週火曜日、国民の祝日の翌日、
年末年始

○気賀関所

〒431-1305 静岡県浜松市北区細江町気賀4577 TEL 053-523-2855
開館時間：9:00～16:30 入館料：大人200円、小人100円 休館日：毎週月曜日、
国民の祝日の翌日(ただしその日が月曜日の場合はその翌日)、年末年始

○浜松市姫街道と銅鐸の歴史民俗資料館

〒431-1305 静岡県浜松市北区細江町気賀1015-1 TEL/FAX 053-523-1456
開館時間：9:00～17:00 入館料：大人150円、高校生100円 休館日：毎週月曜日、
国民の祝日の翌日(ただしその日が月曜日の場合はその翌日)、年末年始

○明善記念館

〒435-0012 静岡県浜松市東区安間町35 TEL/FAX 053-421-0550
開館時間：9:00～16:00 入館料：無料 休館日：毎週月曜日、国民の祝日、年末
年始

○池田の渡し歴史風景館

〒438-0805 静岡県磐田市池田300-3 問合せ先：磐田市生活文化部文化振興課文
化事業調整係 TEL：0538-35-6861 FAX：0538-35-4310
開館時間：9:00～17:00 入館料：無料 休館日：毎週月曜日、毎月最後の火曜日、
年末年始

○磐田市旧見付学校

〒438-0086 静岡県磐田市見付2452 TEL/FAX 0538-32-4511
開館時間：9:00～16:30 入館料：無料 休館日：毎週月曜日、国民の祝日の翌日、
年末年始

この地図は、国土地理院長の承諾を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を
複製したものである。(承認番号 平20業複、第275号)

別冊付録

姫街道ウォーキングガイド
—御油から磐田へ由緒ある古道をゆく—

平成20年9月27日発行

編集・発行 豊川市桜ヶ丘ミュージアム
〒442-0064
愛知県豊川市桜ヶ丘町79-2
TEL 0533-85-3775
FAX 0533-85-3776

印刷・製本 共和印刷株式会社

姫街道 ウォーキングガイド

～御油から磐田へ
由緒ある古道をゆく～

姫街道を歩いて
時間旅行を
してみませんか



姫街道の
松並木

この冊子は付録です

見 本

本坂峠
道中

TOYOKAWA CITY SAKURAGAOKA MUSEUM
豊川市桜ヶ丘ミュージアム



姫様
道中

由緒ある古道「姫街道」

現代の私たちが一般に「姫街道」と呼んでいる道は、古代から二見の道と^{ふたみ}呼ばれ官道としての機能を果たしており、万葉集にも街道にまつわる歌が残されています。また、いつしかこの街道は「本坂越」などと称され、源頼朝が伊豆へ配流される途中に、街道沿いにあった豊川の大江定厳の宿で休息したことが『鎌倉実記』に記されているほか、数々の紀行文にもこの街道を通っていたことが記されています。

江戸時代になると、この街道は東海道の脇街道としてますます重要性が高くなり、明和元(1764)年9月には道中奉行が管轄する公用道路となりました。江戸時代を通じて、多くの大名や姫様、旅人が通行しましたが、嘉永6(1853)年薩摩の篤姫が^{あつひめ}将軍家輿入れのため江戸に向けて通ったことが記録から窺えます。また、興味深い記録として、享保13(1728)年長崎に渡来したゾウが将軍への献上として江戸へ向かうときに、本坂峠越えの姫街道のルートを通っており、今でも引佐峠には「象鳴き坂」と呼ばれる急勾配な坂道が存在します。

往時の街道の様子とは様変わりした現在でも、姫街道を歩くと、街道の性格を示す松並木や一里塚のほか、傍らに佇む道標や常夜燈、所々に残る石畳などに歴史の面影を垣間見ることができるとともに、街道から見渡す豊かな自然景観を楽しむことができます。そして、特に良好な景観等が残る西気賀から豊川の渡し場であった当古までの区間が「本坂通」として平成8年に文化庁より「歴史の道百選」に選ばれました。

このウォーキングガイドは、それら姫街道にまつわる史跡、名勝、天然記念物などを可能な限り掲載しています。みなさんもこの本を片手に姫街道を歩きながら、時間旅行を楽しんでみませんか。



姫街道嵩山宿本坂峠入口



姫街道の名前の由来

「姫街道」という美しい響きの名前はどのように生まれたのでしょうか。江戸時代の文書などにその名前は見られませんが、資料などから名前の由来を推理した様々な説があります。

女性が多く通行した街道 「ひめ」街道説

東海道の脇街道である本坂通は、多くの大名や公家、その妻子や女中が通行した記録が残され、女性が多く通行したことから姫街道と呼ばれるようになったと考える説です。

「ひなびた」「ひねた」街道 「ひね」街道説

古代から江戸時代初頭まで交通量の多い本坂通でしたが、江戸幕府による五街道の整備後は徐々に衰退して「ひなびた」街道となり、また「ひねた」(古い)街道となってしまいました。そして、「ひね」街道が訛って「ひめ」街道となったとする説です。

本道としての東海道と脇往還としての本坂通の関係から生まれたとする説

後述する宝永4(1707)年の大地震以後の本坂通の旺盛ぶりは、もはや「ひなびた」様相はありませんでした。近世社会の儒教思想による男性が主、女性が従という考えから、地元民が本街道である東海道を男性、脇街道である本坂通を女性に見立てて「ひめ」街道と称するようになったと考える説です。

複合的な要因から生まれたとする説

「姫街道」は明治以降の造語ではなく、少なくとも幕末期に「女道」「御姫様海道」などと呼ばれていたことに由来していることがわかっています。そして、本坂通が女性名詞と呼ばれたのは、「姫」をはじめとする女性が多く利用したこと、脇往還である本坂通に女性名称を付したこと、その両者の複合的な関係が原因とし、明治以降になって「姫街道」呼称に統一されたとする説です。

① 御油追分



東海道から分かれる姫街道の起点です。「秋葉山三尺坊大権現道」「国幣小社砥鹿神社道」の石碑と常夜燈が並んでいます。

② 芭蕉の句碑



西明寺の参道入口にあるこの石碑は、市指定文化財となっている芭蕉の句碑です。碑は磨滅して読みにくですが、「かげろうの我が肩に立紙子哉 ばせを翁」と書かれています。寛保3(1743)年に建てられたこの碑は、東三河地方で最も古い句碑と言われています。

⑦ 八幡宮



八幡宮は古代に遡る神社と言われ、三河国分寺の鎮護の神として崇められました。本殿は三間社流造、桧皮葺で文明9(1477)年の建立で、国指定重要文化財となっています。

⑧ 三河国分寺跡



聖武天皇の天平13(741)年の詔によって建立された官立寺院で、発掘調査の結果180m四方の敷地に、七堂伽藍をそなえた立派な寺であったことが分かっています。

③ 船山古墳



5世紀後半に造られた全長94mの古墳で、三河地方最大クラスの前方後円墳です。残念ながら前方部と後円部の一部が削り取られてしまい、当時の姿をとどめていません。豊川市指定史跡

④ 三河総社



古代の国を統治した国司は、その国の国帳に記載されている神社に参拝することになっていました。平安時代になると、国内の神社を便宜上一箇所にまとめて総社とし、この神社に参拝して、すべての神社を参拝したことにしました。

⑨ 三河国分尼寺跡



国分寺と同じ頃に建立された官立寺院です。現在は史跡公園として整備され、中門が実物大復元されるとともに「三河天平の里資料館」も併設されています。

⑩ 本宮山市田遷葬所



天保13(1842)年に地元崇敬者によって建立されたものですが、石鳥居は戦時中の空襲を受けて破損し、現在は砥鹿神社境内地に移転されています。

⑤ 三河国府跡



平成3年度から市教育委員会が行った発掘調査で、この地に古代の役所である国府政庁があることが判明しました。

⑥ 上ノ蔵遺跡



姫街道、本坂道の前身と考えられる道路状遺構が、発掘調査によりこの地で発見されました。現在は区画整理事業の工事で壊され、その姿は残っていません。



11 三明寺



三明寺本堂



三明寺三重塔

寺には数多くの文化財が残されており、三重塔は享禄4(1531)年に建立された現存する建物で最も古く、本堂内にある宮殿とともに国指定重要文化財に指定されています。

13 牧野讃岐屋敷



牧野城の城主牧野能成が築いた居宅と言われているもので、現在は門だけが残され、市の公園となっています。この門は鳳来寺の一の門を移築したと伝えられています。

12 三橋一里塚跡



壽命院横の民家敷地の中に三橋一里塚と言われている小山が残され、その上に榎の木があります。

14 当古の町並み



江戸時代の当古は、旅人が船宿を利用したことや、豊川の舟運の重要な港だったことなどから栄えました。現在でも昔ながらの佇まいをみせる町並みが比較的良好に残されています。

15 当古の渡し



▲当古の渡し古写真



▲現在の当古の渡し跡

当古の渡しは江戸時代初期から、昭和9年に旧当古橋が架けられるまでの三百数十年の間渡しが設けられました。この渡船の実権を握っていたのが当古の旧家・中山家です。

16 中山家跡(当古橋公園)



現在当古橋公園となっている場所は、中山家の旧居宅があったところです。

17 長楽一里塚跡



塚は残っていませんが、平成8年に建てられた石碑があります。「江戸より74里、京より53里」と書かれています。

18 秋葉常夜燈・道標



姫街道(本坂道)はこの地点から分岐し、吉田方面へ行くルートもありました。常夜燈は文政3(1820)年の建立です。常夜燈の前には自然石の道標があり「右豊川 左豊橋」と書かれています。



ながら
19 長楽のヒノキ



根元に地蔵があることから地蔵松とも呼ばれる豊橋市指定天然記念物のヒノキです。樹齢300年とも言われ、鎌倉街道の歌碑もあります。

21 本陣夏目家



▲現在の本陣夏目家

現在は新しい建物に改築されており、西側の白壁の土塀以外に当時の面影は残されていませんが、改築前は古い佇まいをみせていました。



建替前の本陣夏目家▶

すせ
23 高山蛇穴遺跡



国指定史跡に指定されている天然の石灰岩洞穴を利用して営まれた岩陰住居遺跡です。縄文草創期～早期にかけての土器が出土しています。

20 秋葉山常夜燈



嵩山宿の西はずれに建つこの常夜燈は、文政10(1827)年に建立されたものです。

すせ
22 高山一里塚



江戸から73里目の一里塚です。山林の中にあるこもりとした小山が一里塚です。

24 領主茶屋場跡



峠にあった茶屋の跡です。大通行の際のみ領主の命により臨時的に設置された茶屋であったようです。現在は平場が残るだけです。

25 椿の原生林



このあたりは百数十メートルにわたって藪椿の原生林がみられます。樹齢200年以上のものもあり1月～3月にかけて美しい花が見られます。

27 高札場跡・秋葉常夜燈



石組みは高札の土台で、土台の中の土に柱を立てて高札を掲げました。その横には文化4(1807)年に建てられた秋葉常夜燈があります。

29 本坂関所跡



戦国時代よりこの地に関所が置かれ、地頭の後藤氏が掌握していました。その後、気賀の近藤氏が関守となりましたが、気賀関所設置に伴い廃止されました。

26 鏡岩



磨いたような断面を見せる大きな岩があります。昔、ここを通る女性たちが自分たちの姿を映して化粧直しをしたとの言い伝えからこの名前がつけられました。

たちばなのはやなり
28 橋神社・橋逸勢墓



橋逸勢は承和9(842)年に謀反の罪に問われ、伊豆へ配流される途中に板築駅で亡くなりました。神社は逸勢の霊を祀ったもので、境内には墓があります。

30 本坂一里塚・馬頭観音



江戸から72里目の一里塚です。北側のものは当時のものですが、南側のものは失われていたものを近年復元したものです。一里塚の根元には6体の馬頭観音があります。



31 板築駅跡



駅とは古代の駅家のごとで、この地に9世紀中頃に設置されました。本来は官道である浜名湖南側を通る東海道に置かれていたものですが、地震により猪鼻駅が廃絶したことから、浜名湖北側を通る本坂道のルートに駅家が置かれ官道として使われました。

32 華蔵寺



古来から栄えた由緒ある寺には、鎌倉時代初頭の木造釈迦如来坐像（静岡県指定）や室町時代の木造大日如来坐像や木造阿弥陀如来像（浜松市指定）などが残されています。

33 山論犠牲者供養塔



寛永19(1642)年に起こった、本坂村・日比沢村と三ヶ日村との山論のために犠牲となった3人の農民と4人の幼子の供養の為に建てられたものです。

37 宇志瓦塔出土地



瓦塔とは瓦製の仏塔のごとで、この宇志の地から平安時代の瓦塔が出土しています。本物は奈良国立博物館にあり、現地には復元されたものが建っています。

38 慈眼寺



明治初年の大火で元の本堂が焼失したため、佐久米の阿弥陀堂を購入して移築したものです。内部の格天井には弘化4(1847)年に描かれた浜松市指定文化財の花鳥図があります。

39 大谷代官屋敷跡



ここは江戸にいる領主大谷近藤家に代わって、実質的に領内を支配した大野氏の屋敷で、現在もその子孫が居住しています。

34 石川脇本陣跡



公式に認可されたものではなく、本陣が満員になった際に、石川家が脇本陣的な役割を果たしていたものと考えられています。現在その跡地には、黒を基調とした重厚な家構えの建物があります。

35 三ヶ日一里塚跡



三ヶ日宿のほぼ中央に位置するこの塚は、江戸から71里目の一里塚です。現在塚は失われ、記念碑が残るのみです。

36 高札場跡・茶屋跡



宇志には高札場跡と茶屋跡が隣接してありました。現在は説明看板が残るのみです。

40 旗本近藤家陣屋跡



ここは江戸時代に三ヶ日町北部一帯を支配した旗本近藤家の陣屋があった場所です。大谷近藤家は寛永6(1629)年この地に陣屋を設けて以来、200年以上この地方を支配しました。

41 黒坂の森(六部様)



「六部の森」とも言われます。森の中には明和4(1767)年に、回国修行中にこの地で亡くなった僧円心の墓があります。円心が背負っていた厨子と仏像は、大谷の高栖寺で子育て観音として祀られています。

42 大谷一里塚跡



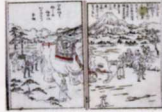
江戸から70里目の一里塚です。塚は失われ、現在は石碑が建っているだけです。



43 象鳴き坂



▲象鳴き坂



▲享保の象

享保の象が將軍謁見のため江戸へ送られる途中、この坂であまりの険しさのため鳴いたことからこの名前が付いたと言われています。

44 薬師堂と秋葉常夜燈



現在のお堂は天保6(1835)年に再建されたものです。姫街道を旅する人々の休憩所としても利用されました。横に建つ常夜燈は文化2(1805)年に岩根の村人によって建立されたものです。

47 獄門囃



係者700名余りが処刑されました。その首を小川に沿っている道にさらしたことから「獄門囃」と呼ばれ、供養塔を建てたということです。

45 ダイダラボッチの池



琵琶湖を掘った土で、富士山を作ったといわれる伝説の巨人ダイダラボッチの足跡と伝えられる池です。

48 樹形と常夜燈



▲樹形と常夜燈



▲樹形石組(ひょうたん)

この樹形は、宿の西側の防御のために道路を曲げ、敵の侵入をしにくくするための施設です。この石組みの中にはひょうたん形をした石がはめ込まれています。すぐ横の常夜燈は安政4(1857)年に地元の若者達によって建立されたものです。

49 気賀関所(復元)



平成2年に江戸時代の文書や、現存する本番所の一部などを参考に再建されたものです。関所に関連した資料が多数展示されています。

50 姫街道と銅鐸の歴史民俗資料館



姫街道関係の資料や、旧細江町内から出土した銅鐸などを展示しています。また、資料館横には昭和59年に移築された旧山瀬家の産屋が展示保存されています。

51 気賀関所跡(本番所の屋根)



気賀宿の東に位置し、旅人の取締を行う施設として明治2年まで機能していました。現在は建物のほとんどが失われて、本番所の屋根だけが浜松市指定文化財として残っています。

46 山田一里塚跡



江戸から69里目の一里塚です。塚は失われ、現在は石碑と説明看板があるのみです。

52 服部小平太最後の地



桶狭間の戦いで毛利新助らと共に今川義元を討ち取った服部小平太は、後に徳川の家臣として刑部一帯を知り行きました。しかし、もともと今川領であったこの地方には、小平太に恨みを持つ者もあり、天正15(1587)年に小平太は土民に襲撃され、この地で命を落としました。

53 老ヶ谷一里塚跡



江戸から68里目の一里塚です。一里塚の石碑が建っています。

54 六地藏



かわいらしい地藏が6体並んで建てられています。この地藏の西側の竹やぶがその昔刑場で、刑死した人の霊を慰めるために正徳2(1712)年に建てられたと言われています。





大谷～小池(市野宿方面)
～
泉(浜松宿方面)

60 三方原追分



姫街道には市野宿・東海道安間へ行くルートと、浜松宿へ行くルートの二通りがありました。その分岐点となったのがこの「三方原追分」です。現在は交通量の多い交差点となって面影はなくなってしまいました。

61 追分一里塚



江戸から66里目の一里塚です。現在は南側のものしか残っていませんが、大正時代までは北側のものも残っていたようです。

62 最古の道標



姫街道に残る道標のなかで、年号の分かるものは最も古い道標です。「右きか かなし 左 庄内道」と刻まれ、裏面には天保3(1832)年建立とあります。

63 宇藤坂



三方原台地を下る急な坂道を「宇藤坂」と言い、姫街道の難所でした。勾配がきつく、20度近いところもあります。県道で途中が分断されています。

56 曲がり松と松島十湖の句碑



街道沿いに体がよじれた竜のような松があり、曲がり松と呼ばれています。初代の松は昭和48年に枯れてしまい、現在は2代目の松となっています。その横には松島十湖が明治19年に詠んだ「別るるは また逢うはしよ 月の友」の句碑があります。

57 東大山一里塚・馬頭観音



江戸から67里目の一里塚です。道の両側に塚がありますが、南側の塚は江戸時代からのもの、北側の塚は平成6年に復元されたものです。南側の塚の横には馬頭観音があります。

58 姫街道の松並木



大山町から葵町にかけて約3km以上にわたり松並木が続いています。現存するのは西側のみでしたが、戦後切り倒されてしまいました。大部分が浜松市指定史跡となっています。

59 奥山半僧坊道標



三方原追分交差点の中にひっそりと佇むように石碑があります。「奥山半僧坊大権現へ三里」と刻まれています。

64 小池一里塚跡



江戸から65里目の一里塚です。塚は失われ、現在は石碑と説明版があるのみです。

65 子安地藏・馬頭観音



正福寺跡の祠に二体一緒に祀られています。もとは二体とも姫街道沿いに祀られていましたが、戦後この地に移されました。子安地藏は寛保3(1743)年、馬頭観音は享保10(1725)年の年号がそれぞれ刻まれています。

66 市野宿



市野宿は江戸前期には姫街道の宿場として栄えましたが、浜松宿の発展によって旅人の流れが変わり、市野宿は衰退を余儀なくされました。現在は宿場の遺構はまったく残っていません。

70 六所神社・明治天皇玉座跡の碑・船橋之記の碑



六所神社境内に碑が並んで建っています。一つは明治天皇の北陸東海地方巡幸を記念して建てられたもの、もう一つは明治天皇が初めて東京に行幸した際に、天竜川に船を使って造られた橋を渡ったことを記念したものです。

71 池田の渡し



天竜川を越える渡しのあたりは東海道と姫街道の重複部分です。渡船場は三ヶ所あり、通常は一番下の渡船場が利用され、水量が増え急流になると上の渡船場が利用されました。

72 天龍川渡船場跡の碑



一番下にある通常利用された渡船場の跡に建てられた記念碑です。

67 池田道起点



池田道は天竜川の池田の渡しへ通じる近道として利用されました。現在は浜松インターチェンジや耕地整理により、そのルートはほとんど失われています。

68 姫街道安間起点



東海道から分岐する姫街道の起点がここにありました。

69 金原明善生家・記念館



明治時代に天竜川の治水事業や植林事業で功績があった「金原明善」の生家が残されています。建物は江戸時代後期の建築と考えられており、道を挟んだ記念館とともに一般公開されています。

73 池田の渡し歴史風景館



徳川家康が池田の渡船衆に与えたとされる朱印状のレプリカなどが展示され、池田の渡船の歴史が分かりやすく紹介されています。

74 行興寺(熊野の長フジ)



平安時代に平宗盛に寵愛された熊野御前とその母の墓が境内にあります。また、この寺は長フジで有名で、天然記念物の指定を受けています。(国指定1株、静岡県指定5株)

75 長屋門



姫街道から少し外れた集落の中に、立派な門構えの居宅があります。門は長屋門と呼ばれる形式のもので、幕末のものを復元したと伝えられています。





ひとことさか
76 一言坂の戦跡碑



元龜3(1572)年武田信玄と徳川家康が袋井市の三箇野川で戦いました。この戦いで敗れた徳川勢は浜松城を目指して敗走しましたが、この地で追いつかれ再び戦いとなりました。これが「一言坂の戦い」です。

かぶつつか
77 兜塚古墳



古墳時代中期に造られた直径80mの円墳で、鏡や玉類が出土しています。武田勢との戦いで徳川勢の本多平八郎忠勝が、この古墳の松の木に兜をかけたという伝説からこの名前がついたと言われています。

78 姫街道見付起点



見付宿の西端に位置する地点が姫街道の起点となります。ここから直角に曲がり南に行くルートが東海道です。

79 遠江国分寺跡



奈良時代に各国に置かれた官立の寺院で、昭和26年の発掘調査で塔跡を始めとする主要伽藍が確認され、翌年国の特別史跡に指定されました。

80 府八幡宮



天平元(729)年、遠江国府の守護神として建立されたと伝えられています。楼門は静岡県指定文化財に指定されています。

81 旧見付学校



明治8年に建てられた現存する日本最古の木造擬洋風小学校校舎で、国の史跡に指定されています。その隣には、江戸時代末に建てられた私設の文庫である「磐田文庫」もあります。

別ルート

泉～浜松

姫街道には三方追分から浜松宿への別ルートがあります。

さいがかけ
82 犀ヶ産古戦場



武田信玄と徳川家康が戦った三方原合戦の戦場の一部となったところです。この崖のあたりに野営していた武田勢を徳川勢が闇にまぎれて急襲し、慌てた武田勢はこの崖から転落し、人馬ともに多くの死傷者を出したと伝えられています。静岡県指定史跡

そうえんどう
83 宗円堂



僧宗円が、三方原合戦で戦死した武將の霊を供養するために建立したと伝えられています。現在は犀ヶ産資料館として一般公開され、三方原合戦や遠州大念仏の資料が展示されています。

ほんた ただぎね
84 本多忠真の碑



本多忠真は徳川家草創期を支えた徳川四天王の一人である本多忠勝の叔父にあたる武將です。忠真は三方原合戦で大敗した徳川勢の殿(しんがり)を務め討ち死にしました。この碑はその功績を顕彰して明治24年に建てられたものです。

85 姫街道浜松起点



浜松宿から三方原追分へ行くルートの起点となる地点です。現在は国道交差点となり交通量がとても多い場所となっています。

